

令和4年度第3回 静岡市認知症初期集中支援チーム検討委員会会議録

- 1 日時 令和5年3月22日(水) 19時15分～20時30分
2 場所 静岡市役所 9階 特別会議室
3 出席者 (委員) 宗会長、坂ノ上副会長、石切山委員、齋藤委員、前坂委員、望月信吾委員、望月千夏委員
(事務局) 地域包括ケア推進本部 繁田次長、森川次長補佐兼係長、草谷主査、北原主任保健師

4 傍聴者 なし

5 次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 議事

①報告事項

- ・認知症初期集中支援チーム員活動(ケース対応の紹介)

②協議事項

- ・認知症初期集中支援チームについての地域包括支援センターへのアンケート調査の結果について

(事務局)

報告事項 認知症初期集中支援チーム員活動(ケース対応の紹介)について説明
質疑応答なし

(事務局)

協議事項 認知症初期集中支援チームについての地域包括支援センターへのアンケート調査結果についてを説明

(望月千夏委員)

この結果は、地域包括支援センターへ情報提供したのか。

(事務局)

今後、情報提供する。

(望月千夏委員)

各地域包括支援センターの動きが分かると思うので、情報共有を図って欲しい。

(前坂委員)

2月末に、駿河区の包括運営部会にて本アンケートについて話し合ったので報告する。地域包括支援センターで初期集中支援チームが上手く回っていないという声が上がった。また、業務量が多く、書類を作れない、対応してくれる医師も存在するとの意見があった。

(宗会長)

煩雑さを工夫すると、利用しやすくなると思われる。

(望月信吾委員)

前坂委員と同じ駿河区の包括運営部会に出席し、包括から意見聴取した。資料にあるように、初期集中支援事業に上がってこない、または上げられないケースで総合相談で対応しているケースの方が大変と言っていた。上がってこないケース、困難ケースをどうしたらいいかをこの検討会で検討し包括が使いやすい事業にしていっていった方がいいと思う。この検討委員会のメンバーに地域包括支援センター職員を入れれば、現実的な課題が出てくるとと思われる。

(宗会長)

なぜ初期集中支援事業を使わないのか。また、件数を増やしたい事業なのか。その辺りも、この検討委員会で検討していければ良い。

(事務局)

件数を増やしたいということではない。本事業は国からの必須事業であり、やる以上は有効に活用して欲しい。本事業を使う利点を地域包括支援センターへ示していきたい。また、手続きに関して、国や他市を参考に簡素化していきたい。

(宗会長)

本事業の有効な利用を望む。

(石切山委員)

今回のアンケート調査では、地域包括支援センターの貴重な意見が聞けた。また、各地域包括支援センターが総合相談で対応できており、優秀とも言えることが分かった。初期集中支援チームのメリットを伝えていく、流れを示していく等の仕組み作りが必要である。

(宗会長)

地域包括支援センターの力量が素晴らしいと分かった調査であったと思う。

(前坂委員)

「かけこまち七間町」について、現状、出張相談等も実施し、機能を発揮しているとのことであった。「かけこまち七間町」の機能と、初期集中支援事業は住み分けできているのか。「か

「かけこまち七間町」は相談しやすいという意見がある。「かけこまち七間町」に認知症の相談が流れているのではないのか。地域包括支援センター事業との明確な違いはあるのか。

(事務局)

地域住民のための相談対応を地域包括支援センターが実施しており、地域を分けず、市内の認知症に関する相談を「かけこまち七間町」で対応している。

初期集中支援事業は、チームとして活動しているが、「かけこまち七間町」は認知症に関する相談は対応しているが、訪問等は実施しておらず、対応できないことがある。ケース対応は、「かけこまち七間町」から、各地域包括支援センターへ情報提供し、そこから初期集中支援事業へ繋がるといった流れである。「かけこまち七間町」については、今後も使い勝手の良い施設にしていきたい。

(宗会長)

本事業と総合相談の住み分けは難しい問題であるため、きっちり住み分けなくても良いのではないか。地域包括支援センターで、どうにもならない時に使うために存在意義がある。難しい事例が集まってくるのが初期集中支援事業ではないかと思う。

本日予定した事項は以上。

○閉会

■会議録確認署名

「令和4年度第3回静岡市認知症初期集中
支援チーム検討委員会 会議録」について、
内容を確認しました。

静岡市認知症初期集中支援チーム検討委員会 会長

氏名(署名) 宗 駿之